

社会科 学習指導案

日時・場所：平成17年10月4日(火)第5校時 2年1組教室
学 級：2年1組(男子10名 女子13名 計23名)
指 導 者：教 諭 小 野 努

1 単元名 第5章 開国と近代日本の歩み(3節 日清・日露戦争と近代産業 近代文化の形成)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、日本がアジア唯一の帝国主義国として隣国朝鮮の植民地化を初め、アジア諸国に進出・侵略への道を歩み始めることを理解させるのがねらいである。前単元において、明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法制定と欧米諸国には遅れたがアジアで初の近代化をなしとげていく日本と明治政府について学習してきた。学制・兵制・税制の三大改革を始とする明治政府の近代化政策の先には当時の欧米諸国が進めていた帝国主義への傾倒があったことを理解させたい。また、学習指導要領において、「政府の富国強兵・殖産興業の政策の下で進展した我が国の近代産業が産業革命を経て発展したことと、その中で国民生活の変化について理解させる。また、この時期に近代文化が形成され都市を中心に文化の大衆化が進んだことに気づかせる。」とされている。よって現在の我々の生活にも影響を与えている学校教育制度や洋風文化などこの時期に形成されていった近代文化や国民の生活様式についてもふれ、学習をすすめていきたい。

このように本単元は近代化に邁進していった日本(明治政府)が対外的には帝国主義国家となり、アジア進出・侵略を本格化させ、国内では学問・芸術の分野において、学制の浸透などにより近代的な思想や世界的な発見が相次ぐなど、我が国の近代化政策の一つの結果が出る時期でもあるので様々な角度からその結果を考察できるように指導したい。

(2) 生徒観

男女とも明るく、活発なクラスである。特に男子は好奇心が強く、様々な事柄に興味を示し、意欲的に活動を行う。女子も積極的な発言は乏しいが、課題をしっかりと把握し落ち着いた態度で学習を行うことができる。しかし、男女共に思考・判断の部分や資料活用場面になると、数値、絵図、グラフなどに対する抵抗感や、自分で考えてまとめたうえで発表することへの抵抗感があり、積極的な活動ができない部分も見受けられる。題材的に時代背景や歴史関係が複雑で生徒のにとってなじみにくい部分ではあるが、生徒の好奇心を刺激するような資料提示などを行い授業の展開に生かしたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、歴史は断片的なものではなく一つの大きな流れとして存在していることを意識させることができるように指導したい。また、本単元では日清・日露戦争の展開や、我が国の産業革命の達成、近代文化の形成など、グラフ・絵図などの資料が多数出てくる単元でもある。生徒観でも述べたが、生徒の中には資料の読み取り・考察に対し苦手意識を持っているものも多いので、効果的な資料提示ができるよう意識をして、生徒の苦手意識を薄めていけるようにもしたい。

3 単元の目標

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
我が国の近代の歴史とそれに関わる世界の動きに対する関心を高め、意欲的に追究できる。	我が国の近代の歴史とそれに関わる世界の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断できる。	我が国の近代の歴史とそれに関わる世界の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果をまとめ、説明ができる。	我が国の近代の歴史とそれに関わる世界の動きを理解し、その知識を身につけることができる。

4 第3節の評価規準

時間	学習内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
1	植民地獲得競争と東アジア	条約改正に至る過程を年表などをもとに調べ、人々の努力や国際情勢と関連させながら関心を持つことができる。			日清戦争に至るまでの背景として欧米諸国の植民地獲得競争に気づき、東アジアの情勢を理解できる。
2	日清戦争		下関条約の内容を理解し、その後のアジア侵略の様子を台湾植民地化から考えることができる。		日清戦争の原因と結果を考察し、その後の日本内外の情勢を考えることができる。
3	日露戦争	アジアにおけるロシアやイギリスの動向と日本について関心を持つことができる。		日露戦争について、規模の大きさや、内外反応を当時の資料をもとにまとめることができる。	日露戦争の原因と結果、その影響について理解できる。
4	韓国と中国		韓国植民地化の進展のあらましや内容を考察することができる。		辛亥革命について、列強の支配に対する、中国国内の民族的自覚を理解できる。
5	産業革命の進展	我が国の近代産業の発展に対する関心を高め、意欲的に追求できる。		我が国の近代産業の発展について、文献、統計、グラフなど資料を収集・選択し、考察の結果や過程をまとめることができる。	
6 本時	近代文化の形成		我が国の近代化に伴う国民生活の変化と近代文化の形成、大衆化を多面的・多角的に考察し、公正に判断できる。	我が国の近代化に伴う国民生活の変化、文化に関する文献、映像、統計、グラフなどの様々な資料を収集・選択し、考察した結果や過程をまとめることができる。	

5 本時の指導

(1) 目標

教科について

- ・ 我が国の近代化に伴う国民生活の変化と近代文化の形成、大衆化を多面的・多角的に考察し、公正に判断できる。(思考・判断)
- ・ 我が国の近代化に伴う国民生活の変化、文化に関する文献、映像、統計、グラフなどの様々な資料を収集・選択し、考察した結果や過程をまとめることができる。(資料活用の技能・表現)

(2) 本時の評価の観点と具体的評価基準

評価規準	具体的評価規準		努力を要する生徒への 対応・手だて
	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	
我が国の近代化に伴う国民生活の変化と近代文化の形成、大衆化を多面的・多角的に考察し、公正に判断できる。(思考・判断)	提示された当時の文化の代表的な作品をもとに、江戸時代の作品などと比較し、違いを考察することができ、当時の文化の特徴を考察することができる。	提示された当時の文化の代表的な作品をもとに、江戸時代の作品などと比較し、違いを考察することができる。	一斉指導や、机間巡視で、既習事項をもとに確認を行い、意欲を持ちながら考察できるようにする。
我が国の近代化に伴う国民生活の変化、文化に関する文献、映像、統計、グラフなどの様々な資料を収集・選択し、考察した結果や過程をまとめることができる。(資料活用の技能・表現)	学制の普及による就学率上昇のグラフや、高等教育人口拡大のグラフなどをもとに、我が国で近代文化が普及、発展していった理由を考察、自分の言葉でまとめて発表することができる。	学制の普及による就学率上昇のグラフや、高等教育人口拡大のグラフなどをもとに、我が国で近代文化が普及発展していった理由を考察することができる。	一斉指導や、机間巡視を行う他に生徒同士の教え合いをする場をもち、協力して考察の結果をまとめられるようにする。

(3) 指導の構想

表現方法の工夫、手だて

- ・ 資料の収集、選択、処理、活用をし、学習で得た結論とその結論を導き出した過程をプリントにわかりやすくまとめさせる。
- ・ 学習の結果を文章などにまとめ積極的に発表できるようにさせる。

(4) 展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 評価 表現方法の工夫、手だて
導入 15分	<p>前時の復習</p> <p>1 当時の国民生活の変化を復習として確認する。</p> <p>2 当時の文化の代表的な作品をもとに文化の内容を整理する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題：近代文化が普及、発展した理由を考えよう。</p>	<p>1 前回のプリントなどを用いて、当時の産業の様子や、国民生活の様子を確認する。</p> <p>2 ・江戸時代と比べ、文章の表現や絵の技法が大きく変わっていることに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復習なので指名し答えさせる。 ・ 声を出して読み比べるように指示をする。 ・ 教師側から資料を提示し、資料の内容や特徴を説明する。
展開 25分	<p>近代文化が普及、発展した理由を考える。</p> <p>3 ・当時の文化の特徴を把握し、どのような文化であったかを予想する。</p> <p>近代文化が普及し、発展していった理由を理解する。</p> <p>4 ・就学率変化のグラフを確認し、日本中に義務教育が普及したことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育が確立し、子どもが学校に行くことでよいことについて考える。 ・ 高等教育の充実が世界的発見につながっていくことを理解する。 <p>5 ・学制が普及した観点から、当時の文化が大衆に普及したことや高等教育の拡充で世界的な発見につながっていったことを理解する。</p>	<p>3 ・先に提示された資料をもとに当時の文化の様子や江戸時代との違いをもとに特徴を予想し、プリントにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで確認し、それぞれが考えた予想を発表する。 <p>4 ・当時の変化を表したグラフと現在の日本のグラフ現在の外国のグラフを比較し早い段階から普及していたことに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育で受けられる恩恵や、学校に行くことができるようになることなどをプリントにまとめ発表する。 ・ 高等教育人口の拡充の様子を示すグラフを確認し、世界的発見をした人物との関係を考える。 <p>5 ・これまでにまとめた点をふまえ、文化の大衆化に学校教育の普及が関係していたことや高等教育の拡充が世界的な発見につながっていったことを自分の言葉でプリントにまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめる作業は班員などと協力してよいと指示を出す <p>我が国の近代化に伴う国民生活の変化と近代文化の形成、大衆化を多面的・多角的に考察し、公正に判断できる。(思考・判断)</p> <p>学習の結果を文章などにまとめ積極的に発表できるようにさせる。</p> <p>我が国の近代化に伴う国民生活の変化、文化に関する文献、映像、統計、グラフなどの様々な資料を収集・選択し、考察した結果や過程をまとめることができる。(資料活用の技能・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの内容や特徴を説明し、グラフに対する抵抗感をなくしながら取り組ませる。 <p>資料の収集、選択、処理、活用をし、学習で得た結論とその結論を導き出した過程をプリントにわかりやすくまとめさせる。</p>
終末 10分	<p>6 自己評価(学習事項)</p> <p>7 自己評価(表現等について)</p> <p>8 次の時間の予告</p>	<p>6 自己評価の項目を通して学習事項を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価を行うことにより、本時で学習した事柄を再認識させる。